女子高生紹介

女子高　十人十色

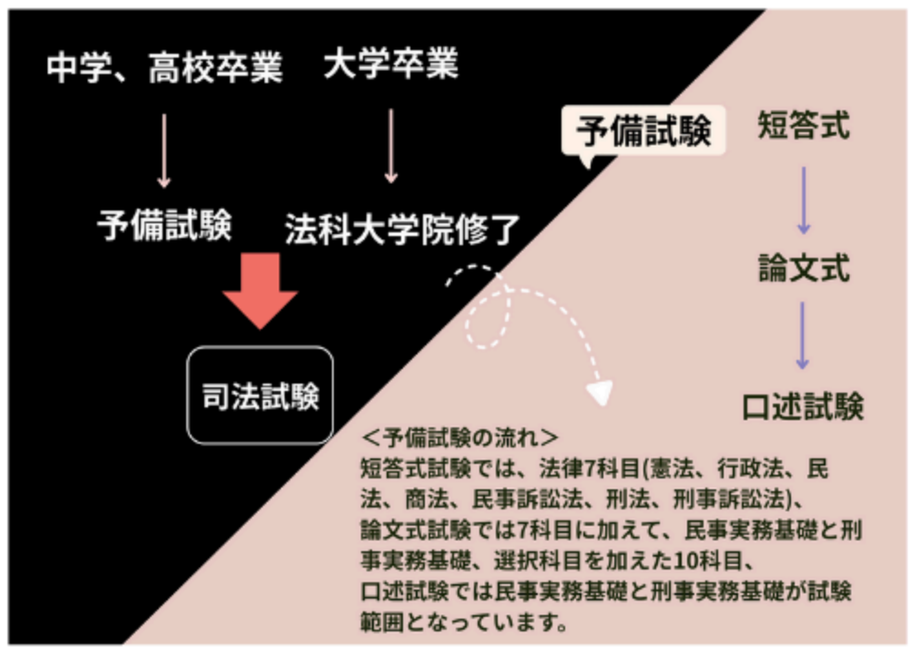
様々な分野で能力を発揮する現役女子高生を
突撃取材！その活躍を深掘りします。

01 司法試験予備試験合格、前向きに努力

予備試験合格者の司法試験合格率は毎年9割越えと高い水準で推移しており、司法試験合格への一つの手段になります。

Q/ 司法試験予備試験とはどのようなものですか？

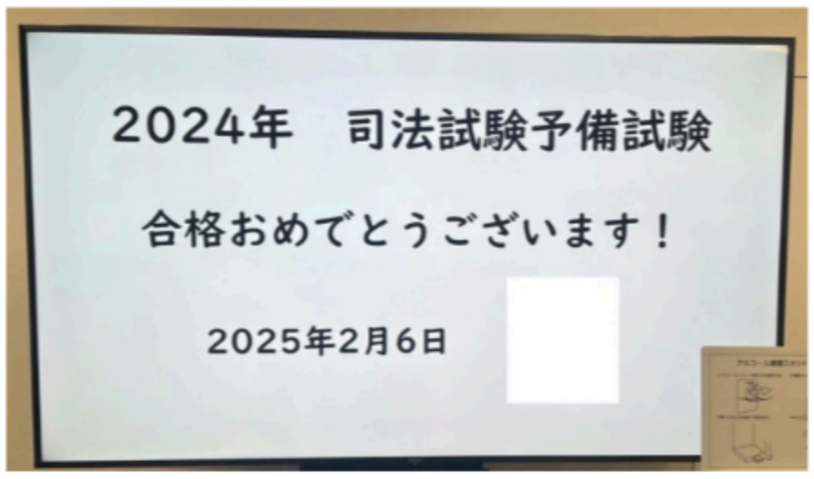
A/ 法科大学院に行かずに司法試験の受験資格を得るための試験です。
法科大学院修了と同程度の学力があるかを判定する試験であり、合格率は毎年3パーセントほどの試験です。1年に1回行われ、受験資格に制限がないため幅広い年代の人が受験しています。



N.T.さん

在学中に司法試験

予備試験　合格



Q/ 合格までに何回試験を受けたのですか？

A/ 私は1回目の挑戦で予備試験に合格できましたが、合格までの道のりは長かったです。予備試験合格までに3度の試験を受ける必要があるからです。（予備試験は7月の短答式試験、9月の論文式試験、1月の口述試験からなっています。）

高1の時は、大学生になったら予備試験を受けようと思い、のんびり勉強していました。そのため、高2になって予備試験の1年合格を狙うにあたり、長時間勉強することになりましたが、最初から力を入れて勉強していれば、もう少し短い時間の勉強で済んだと思います

Q/ 一日にどれくらい勉強しましたか？

A/ 授業のある日ない日、部活がある日ない日と、日によって様々です。ただ、高2からは、期末や実力テスト直前を除けば、家ではずっと法律の勉強をしています。学校のある日は6～7時間、休みの日は11時間ほどです。

Q/ 女子高生活が試験勉強に生きた経験はありますか？

A/ 女子高では三大行事と呼ばれる大きなイベントがあるうえに、試験も大変です。そのため、自分でスケジュールを管理しないと後に苦労することになります。私は1年生の頃から、スケジュールをたてて、それをしっかりこなしていくという習慣をつけていました。この習慣は、予備試験の勉強をする上でも生きたと思います。
また、周りには課外活動を頑張っている友達が複数おり、彼女たちの存在も、自分も頑張ろう！と思えるきっかけになりました。

女子高生紹介

Q/ 司法に興味を持ち始めたきっかけはなんですか？

A/ 小学生の頃から、人を助ける仕事がしたいと漠然と考えており、選択肢の一つとして弁護士になることがありました。また、論理的に考えることが好きなので、自分の性に合っているのでは、と思っていました。
中学生のとき一年間の留学をし、自分の将来について真剣に考えるようになりましたが、高1のゴールデンウィーク中に、何気なく書店の法律コーナーに立ち寄ったことが直接のきっかけです。
私は読書が好きで、本を買いにしばしば書店に行くのですが、その際に、憲法の入門書を買って読んだところ、一回読んだだけで夢中になり、たくさんのことを記憶できました。その後も他の法律の入門書を読んだり、司法試験について調べたりしているうちに、自分もやってみよう！と思い、高1のゴールデンウィーク明けに司法試験の予備校に入りました。

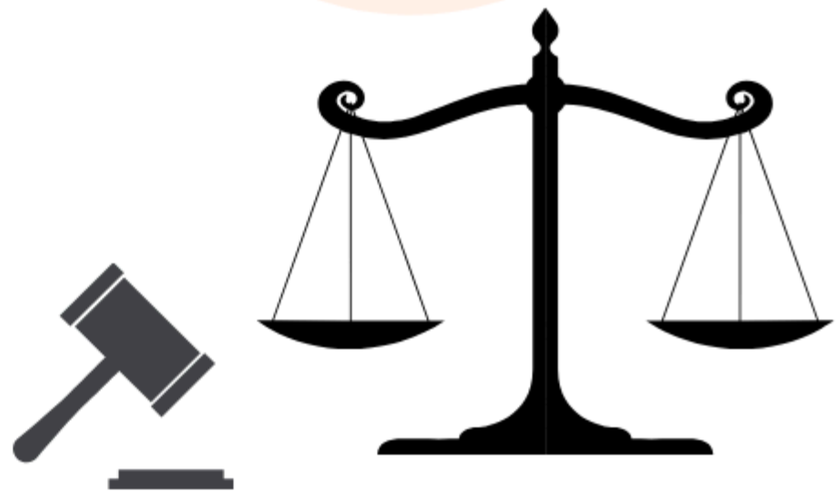
司法試験予備試験
試験当日の様子。
門外から撮影。

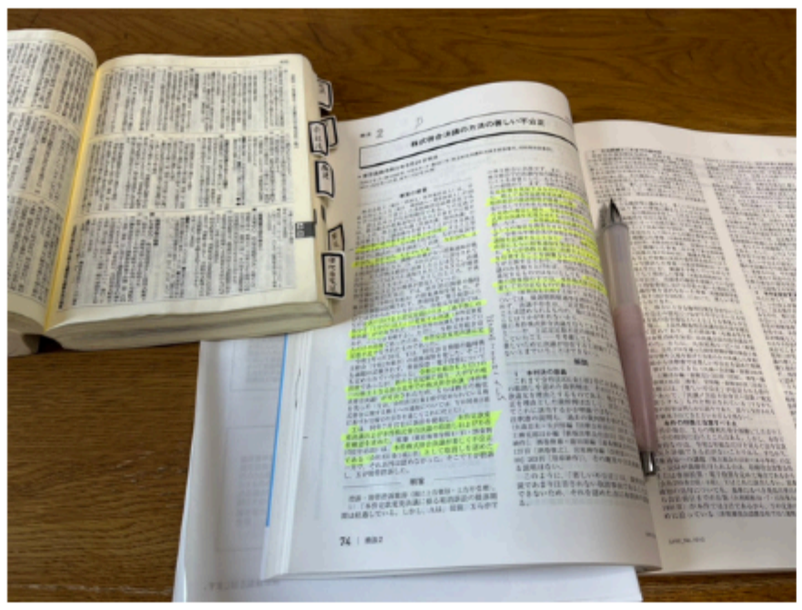
Q/ 学校生活と試験勉強の両立は大変でしたか？

A/ 大変でした。短答式試験は1学期の期末試験の翌日にあったため、予備試験に向けた勉強に加え、学校の勉強も直前までやらなければならず、特に大変でした
また、週6の学校に加えて、私はマンドリンクラブに所属しており、週4で5時半まで(土曜日は4時まで)練習があります。口述試験の直前はコンクールの予選に向けた練習の真っ只中でした。試験直前で練習に行けない時も、家に楽器を持ち帰って練習し、部活のメンバーに迷惑がかからないようにしていました。
部活がなかったら、学校の勉強がなかったら、と考えるのではなく、やらなければいけない前提でスケジュールをたて、弱音を吐かずに努力を続けることで、なんとか両立できたと思います。

Q/ 将来は何をしたいのか、また理想像などあれば具体的に教えてください！

A/ まだ明確に決まっているわけではないですが、企業法務の弁護士になりたいです。私の予備試験の選択科目が経済法(独占禁止法)で、企業間といった大きな規模でも法律問題があり、それを解決するのは面白いなと思ったからです。
また、先ほども触れましたが、中学生の時にアメリカ・ニューイングランド地方にあるボーディングスクールに長期留学し、世界中の友達と寮生活をしました。得意な英語を生かして、海外と関わりを持ちながら仕事ができる企業法務の弁護士は、魅力的だなと思っています。





試験勉強の際の教材。
よく使い込まれている。